

関西・大阪21世紀協会は、「助成と顕彰」、「関西・大阪ブランドの発掘と発信」、「伝統の進化と創造」の3つを事業の柱としています。その中から、昨年7～10月に実施された事業のいくつかをご報告します。



## 海外アーティストを含む総勢 82 組 **アートストリーム 2018**

2018年9月28日～29日／大丸心齋橋店

主催：アートストリーム実行委員会(大阪芸術大学、大阪府、大阪市、関西・大阪21世紀協会)

### ストリーム 大阪から新たな潮流を起こそう

関西を拠点に活動するアーティストやクリエイターに、発表の場と飛躍の機会を提供する「アートストリーム」。大丸心齋橋店を会場に作品の展示と即売を行うもので、2003年にスタートし、今回で18回目を迎えました。

今回は一般公募で選ばれた81組、ゲストアーティスト1名(2017年アワードグランプリ受賞者)が出展。台風の接近で開催日を1日短縮したにもかかわらず、2日間で延べ約3,000人の来場者で賑わいました。また、前年に引き続き韓国、さらにイタリア、台湾からも参加者を迎え、国を超えて交流の輪を広げました。

ジャンルは絵画、版画、書、彫刻、オブジェ、インスタレーションなど多彩で、その中から審査委員の選考により、最高賞のグランプリ(賞金30万円)がCOMIC HEADS(コミックヘッズ：ソウタさんとトリコさんの男女2人で構成するアートユニット)に贈られました。受賞作は、アメリカのサスペンス映画『ノーカントリー』に登場する悪役をモチーフに、砂漠を移動する殺し屋の表情が時間経過とともに変化する様子を、約1.5m四方の大きなビニールキャンバス2枚で大胆に表現。審査委員長の絹谷幸二氏(洋画家・文化功労者)から、「大きな作品を物怖じせず描ききり、一目で心を打つ迫力がある。画面を貫く直線が遠近を表現するなど、絵画手法にも深い読みを感じた」と高く評価

されました。人物画を得意とするソウタさんは、大阪芸術大学を卒業後、作家活動に入って7年目。独特な抽象表現を得意とするトリコさんは、ロンドンのアートカレッジを卒業して2012年から大阪で活動を開始しました。二人は「高く評価していただいてとても嬉しい。将来は世界にも進出していきたい」と声を弾ませました。

また、奨励賞(賞金5万円)は小笠原悠さん(クラフト)、CHAOSMOS(カオスマス)・富岡雅寛さん(オブジェ)、Rhaomi(ラオミ)さん(韓国・絵画)の3人に贈呈。仕事のオファーや個展開催などの副賞がついた「企業・ギャラ



COMIC HEADSの受賞作とソウタさん(右)、トリコさん(左)

リー賞(22件)」は川瀬大樹さん(絵画・関西・大阪21世紀協会賞)ら17組(18人)に贈られ、来場者の投票による「オーディエンス賞」には、ファッションイラストのSamille(さみいゆ)さんが選ばれました。

表彰式で佐々木洋三実行委員長(関西・大阪21世紀協会専務理事)は、「今回も海外アーティストが参加し、文字通り大阪からアートのアートストリーム(潮流)を起こすイベントに成長してきた。大阪には、木村兼葎堂(けんかどう)、山本發次郎、岩本栄之助など、民が文化を牽引する伝統があり、そのDNAは現在も脈々と受け継がれている。今後も関西・大阪で活躍するアーティストと企業の皆さんの豊かな感性と創造力で、大阪から新たなアートの潮流を起こしていきたい」と語りました。



川瀬大樹さん(関西・大阪21世紀協会賞)と作品



会場風景



1講座 500円×123種類の体験型講座

## WORKSHOP FESTIVAL DOORS 12th

2018年7月28日～31日、8月3日～5日(大阪市立芸術創造館など4か所)、8月25日・26日(西宮市民会館)  
主催：IWF実行委員会(関西・大阪21世紀協会、アートサポート共同事業体)

「文化は人がつくる」をコンセプトに、多くの方が気軽に参加できるライブコミュニケーションの場を提供することを目的として、12年目を迎えたドアーズ。今回も伝統芸能から現代アートまで、さまざまなジャンルのワークショップ全123講座が開講されました。大阪会場91講座(旭区民センター・大阪市立芸術創造館、メビック扇町、大阪府立江之子島文化芸術創造センター、クレオ大阪南)と西宮会場32講座(西宮市民会館)で開催され、5会場合わせてのべ1,705人が参加。受講者は小学生から60代まで幅広く、受講後のアンケートではなんと90%の人が「満足」と答え、次回の開催を希望する声が73%もありました。



ワークショップの様子



## 交流サロン21cafe ガストロノミーとこれからの食文化

辻 芳樹氏(学校法人辻料理学館 理事長、辻調理師専門学校 校長)  
2018年10月16日/中之島センタービル

ガストロノミー(美食学、美食術)は、19世紀初頭以降にフランスで発展した学問。料理と食は文化の一部であると位置付け、おいしい料理や豊かな食を通して社会や産業の発展を図ろうとする研究や活動です。辻氏は、近代フランス料理の食材や味付け、調理技術などの変遷と、そのなかで日本料理がどのような影響を与えたのかについて数々の具体例を示して解説。1960年代と現代の創造的な料理やデザートを示し、50年以上にわたる美食の歴史の流れはガストロノミーの変遷であるとししました。そのうえで辻氏は、私たちは、和食によって世界に何を発信していくのかが問われる時代がきたと指摘しました。



辻 芳樹氏

講演の様子



## 元禄時代に起源をもつ賑やかな伝統行事 今宮戎神社十日戎「宝恵駕行列」

2019年1月10日/道頓堀～今宮戎神社

今宮戎神社「十日戎」の奉納行事として、大阪府無形民俗文化財に指定されている宝恵駕(ほえかご)行列。元禄時代に花街の集客や商売繁盛を祈願してはじまり、現在は地元商店会や経済界などの協力により、その伝統が受け継がれています。今年は芸妓代表の佳世子さんを先頭に、歌舞伎俳優の中村鴈治郎さんや日本舞踊・山村流六世宗家の山村友五郎さん、OSK日本歌劇団の桐生麻耶さん、NHK連続テレビ小説『まんぷく』に出演中の藤山扇治郎さんらが続き、2時間にわたり沿道の歓声をあびながら練り歩きました。関西・大阪21世紀協会 上方文化芸能運営委員会は、宝恵駕振興会実行委員会の役員を務め、実施運営に携わっています。



ほ え かご  
芸妓代表の佳世子さん

ミナミの商店街に練り出す宝恵駕行列

### 新刊のお知らせ

【関西・大阪21世紀協会編著】

歴史は生きている 最新フィールドノート

## なにわ大坂をつくった100人

17～19世紀篇

古代から近世まで、なにわ大坂にゆかりの深い100人の足跡を訪ね、今日どのように語り継がれているのかをルポルタージュするシリーズの第3弾。本書では17～19世紀に活躍した37人を収録しました。既刊の「古代～15世紀篇(31人)」「16～17世紀篇(32人)」と合わせ、本書で100人を取り上げたこととなります。発刊は今年3月を予定。発売日は、協会ホームページなどでお知らせいたします。

### 主な掲載人物

坂田藤十郎(初代)、竹本義太夫(初代)、近松門左衛門、三宅石庵、天野屋利兵衛、鴻池善右衛門(三代)、富永仲基、麻田剛立、木村兼葎堂、中井竹山、三好正慶尼、草間直方、緒方洪庵、上田秋成ほか

既刊「古代～15世紀篇(1,600円+税)」

「16～17世紀篇(1,800円+税)」は、

大阪府内書店、Amazonなどで発売中。

\*書店にない場合は、書店にてご注文いただくか、発行元(株式会社澤標)にご注文ください。

発行元：(株)澤標

大阪市中央区内平野町2-3-11-203  
TEL.06(6944)0869 FAX.06(6944)0600

